



環境

ポーラ・オルビスグループ 環境方針

ポーラ・オルビスグループの環境方針

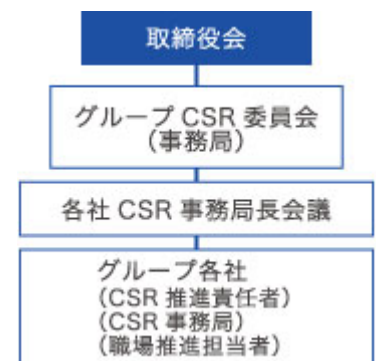
1. 商品のライフサイクルを通じて環境負荷の低減に努めます。
2. 環境目標を設定し、技術的、経済的に可能な範囲で継続的改善と汚染未然防止に努めます。
3. 地球環境を保全・向上させるために環境に優しい商品開発や事業所での省資源、省エネルギー、廃棄物の抑制に努めます。
4. 環境に関する法律、県市町村条例・協定及び自主基準等を遵守します。
5. 地域、社会との共生に努め、環境保全・向上活動を推進します。

お取引先での環境対応

ポーラ・オルビスグループのCSR調達ガイドラインにおいて、全てのお取引先に、エネルギー・資源使用の効率化、CO₂排出量・水使用量・廃棄物の削減、環境汚染対応を含めた環境負荷低減及び生態系を含む環境の保護をお願いしています。CO₂排出量、水使用量、廃棄物、環境汚染についてCSR調達ガイドラインに基づく、CSR調達アンケートにてすべてのお取引先さまに確認させていただいています。

ポーラ・オルビスグループ 環境対応の体制

ポーラ・オルビスグループでは、ポーラ・オルビスホールディングスCSR事務局が主体となり、環境の目標の達成のため、また環境に関する課題の改善のために、環境負荷低減目標を各グループ会社で作成をしています。この目標はグループCSR委員会で、内容の審議及びモニタリングを実施し、取締役会に報告しています。





気候変動(CO₂排出量削減)の対応

TCFDへの賛同

ポーラ・オルビスグループは、美しい地球とともに持続的に成長していくためには、気候変動リスクに対応していく必要があると考えています。2021年気候関連財務情報開示に関するタスクフォース(TCFD)への賛同をしました。TCFD提言に基づき、気候変動が事業に与えるリスクや機会の情報開示を行っていきます。

シナリオ分析

ポーラ・オルビスグループでは、脱炭素社会への移行に伴い不確実性の高い将来を見据えて、どのようなビジネス上の課題が顕在化するか、2°Cシナリオと4°Cシナリオのそれぞれにおいてシナリオ分析を行いました。シナリオ分析は、当グループのすべての事業を対象に、中長期戦略に合わせて中期で2023年、長期で2029年(創業100周年)と設定、また超長期として2050年で考察しました。これには原材料調達を含めたバリューチェーン全体を考慮しています。

物理的リスクの評価について、4°Cシナリオでは災害発生の可能性の影響と、天然の植物原料の調達において、影響を受ける可能性が判明しました。移行リスクの評価について、2°Cシナリオでも排出規制によるカーボンプライシングの影響により事業コストの増加や、顧客嗜好の変化による商品構成への影響などネガティブな財務インパクトを与えるリスクが判明しました。

発生の可能性が高い物理的リスクへの対応策と、移行リスクにおける排出規制対応への対応策について、グループ横断組織CSR委員会にて審議され取締役会へ報告、グループ優先リスクとして対応することを経営決定しました。

このシナリオの分析により、SBT1.5°Cシナリオに準拠した目標を再設定しました。バリューチェーン全体を通じたCO₂排出量の削減や容器包装材料の削減、再生可能エネルギーへの切り替え、カーボンオフセットなど既存の取り組みに加え、今後の更なるCO₂排出削減への規制強化や、同業他社間での低炭素経営の競争激化が当社グループの事業運営に影響を及ぼすことが予想されるため、当グループは、グループ横断組織を立ち上げ、商品開発やプラスチック循環モデルの確立などの技術革新がなせるよう検討を進めています。

気候変動(CO₂排出量削減)の目標・実績

ポーラ・オルビスグループは、SBTに基づき2029年までのCO₂排出量の目標を策定しました。また、これらの目標は、グループの役員報酬とも連動をしています。

Scope1,2	CO ₂ 排出量 目標値	CO ₂ 排出量 削減率目標	基準年(2019年) 実績値	2020年実績
2029年	6,762t-CO ₂	42%	11,659t-CO ₂	9,600t-CO ₂
2023年	9,677t-CO ₂	17.0%	11,659t-CO ₂	9,600t-CO ₂

Scope3	CO ₂ 排出量 目標値	CO ₂ 排出量 削減率目標	基準年(2019年) 実績値	2020年実績
2029年	492,776t-CO ₂	30.0%	703,966t-CO ₂	388,685t-CO ₂

2021年～2023年の3年間でCO₂排出量(Scope1、2、3の合計)を4,484t-CO₂削減することを目標としています

CO₂削減の取り組み

Scope1,2でのCO₂削減の取り組み

気候変動への適応策として省エネの取り組みを進めています。その一環として、2020年はポーラ化成工業の袋井工場では省エネ機器への切り替えと工場設備の稼働効率を改善、運転時間の短縮などを行いました。また、2021年4月に100%再生可能エネルギーに由来するCO₂フリー電力※へ切り替えました。これにより約3,000tのCO₂排出量削減、グループ全体のCO₂削減量の約30%相当の削減が見込まれます。(Scope1,2、2019年比)

※再生可能エネルギーに由来する環境価値を活用することで、実質的に再生可能エネルギー100%とした電気

また、日本における脱炭素社会への推進のため、2020年より再生可能エネルギー発電由来のJ-クレジット※の購入を行っています。これにより2020年は当社グループで排出したCO₂排出量のうち498t-CO₂分をオフセットしました。

※J-クレジット:再生可能エネルギーの活用などの取り組みによる、CO₂などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

Scope3でのCO₂削減の取り組み

直接排出だけでなく、CO₂の間接排出も削減し、気候変動に適応しています。オルビスでは、通販・EC向け出荷作業の主要拠点「オルビス東日本流通センター」の通販用出荷ラインに自動搬送ロボットなどを導入、集荷から方面別仕分けまでを独自に自動化する取り組みを行い、約71tのCO₂削減をしました。

また、オルビスでは再配達削減も取り組んでおり、宅配便からメール便への切り替えなどを行い2018年に約14tのCO₂を削減しました。

ディセンシアでは、従来プラスチックで包装していたトライアルセットをFSC認証紙に2020年に変更しました。この結果約7.86tのCO₂削減が見込まれています。

森林保護の取り組み

気候変動への適応策として、森林保護が重要であると考えています。「甲州市・オルビスの森」では、オルビスの社員らが(公財)オイスカと荒廃した森林の整備を行い、里山として再生するプロジェクトを2012年4月から継続して実施しています。また、ジュリークでも、自社農園での「バイオダイナミック無農薬有機農法」での植物の栽培と、ジュリークの土地での植樹活動を行っています。また、ポーラ・オルビスグループでは、FSC認証紙を使用しています。さらに、RSPOに加盟することによって、パーム油の気候変動への対応を行っています。

プラスチックごみ削減の取り組み

プラスチックでは廃棄時のCO₂排出量が多いことから気候変動にも大きな影響を及ぼしていると考えています。ポーラ・オルビスグループでは、1985年から化粧品の高級ラインとして初めてリフィル容器での販売を開始し、現在でもポーラの約8割がリフィルでの購入となっています。また、オルビスでは、包装をプラスチックから紙容器にしました。また、ポーラ化成工業は、2020年より日立造船株式会社と共同で植物由来生分解性プラスチックの研究を開始しています。